る。即ち曾て昭和十七年四月十八日、彼等が東京上空を空襲し、國民學校の兒童と知りつつこれを掃射したるが如きは、ただ其時、其場所に限つての偶然の出來事ではなく、それが即ち米國の日本に對する國是である。斯の如くにして我れに向つて神經戰を挑まんとしつつある。

萬一の覺悟

× × ×

空襲を雷雨と心得よ

彼等をして我が沿岸に近付けしめざるは第一の上策である。然も如何なる網でも、總ての魚がこれを潛らないとは限らない。我等は出來得る限り彼等の空襲を未然に防止するも、萬一のことを覺悟せねばならぬ。其の場合に於て我が國民が、ロンドンを空襲せられたる英國人以上に、ベルリンを空襲せられたる獨逸人以上に、所謂る日本精神を發揮してこれに對抗し、これが爲めにたとひ如何なる損害を蒙つても、宛もこれを一時の雷雨と心得、冷然、平然、毅然としてこれを通過するに於ては、彼等は策盡き、術究まつて遂ひには彼等自から消耗し、云はば獨り相撲を取つて自から倒るるの仕儀に陷ることは必然である。故に彼等の神經

泰然自若の必要

戰に對しては、第一は未然に防ぐこと、第二はこれを抗爭、撃退することと、第三はこれを無視して泰然自若たること、この三者が必要である。特に我等は其の第三の泰然自若といふ點に重きを置いて、我が國民が豫じめ其の腹帶を締め、其の覺悟を爲しつつあらんことを希望する。

第十七　思想戰

アングロ・サクソンの思想的植民地

それよりも更らに深く、廣く、長く、且つ效果的であるは思想戰である。彼等は彼等の所謂る一世紀に近き間、日本が殆んど思想的にアングロ・サクソンの植民地となつてゐたことを熟知してゐる。今日彼等と交戰しつつあるも、日本の思想界にはなほアングロ・サクソン崇拜の思想が殘存することを知つてゐる。所謂る燒木に火が附き易く、彼等が一度びこの殘存する英米思想に火を點ずれば、忽ちこれが一般に燃え上るものと彼等が妄信するも、彼等としては無理ではない。此に於てか彼等は正面に於ては堂々戰艦、巡洋艦、航空母艦、驅逐艦、それに配するに千

萬の飛行機、幾多の魚雷、凡有る有形的反擊を企て且つ行ひつつあるも、それよりもより深刻に、より效果的の方面をその思想戰の分野に見出だしてゐる。今まこの思想戰が如何なる方面に動き、如何なる手段、方法を採りて行はれつつあるかといふことに就ては、我等は今まここにこれを語るべき自由を有しない。然もこれは我國に取つてはコレラの如く、ペストの如く、實に恐るべきものであつて、我等は銘々この思想戰に對して十二分の防禦を以て滿足するばかりでなく、我れより進んで彼れを擊破するの手段、方法を講ぜねばならぬ。

思想戰はコレラ、ペストの如し

× × ×

思想戰は戰鬪の主力

如何にアングロ・サクソン人が宣傳を以て戰爭の前衛となすかは何人も知るところ。然も其實は前衛どころではない、思想戰其物が戰鬪其物である。少くとも戰鬪の主力である。著者は曾て英國の新聞王と稱せられたる子爵ノースクリフの我國に來遊するや、偶然面會の機を得たるに、彼れは著者に向つて如何に第一次世界大戰爭に於て思想戰が主要なる働

IMT 545

ノースクリフの誇言

ロールバッハのノースクリフ評

虚僞の製造

ロイド・ジョージの感謝狀

きを爲したるかを語り、揚々として得色があつた。これは實に間違ひなき事實である。彼れは思想戰に依つて戰爭の終極を六ヶ月早めたと云ひ、又た思想戰に依つて戰爭の大團圓を告げたと云つてゐる。事聊か誇大に似たるも事實は全く其通りである。獨逸人バウル・ロールバッハは曰く「ノースクリフは全く道義的良心無き漢である。彼れの日常の道具は嘘を云ふこと、粗獰なること及び冷血なることである。然も彼れはこれらの道具を使用するに於ては最も長技を有してゐた」と。即ち彼れは一例を擧ぐれば、獨逸人は脂肪が缺乏したるが爲めに、敵の死體を煎じて其脂を使用したなどといふとてつもない虚僞を製造し、獨逸の如何に野蠻且つ非人道であるかを世界に流布せしめた。されば戰爭の終るや、當時の英國首相ロイド・ジョージはノースクリフに向つて斯く感謝狀を申し送つた。「予は貴君の無上なる働きの成功、而してそれに依つてオーストリア及び獨逸の敵勢をして劇的の壞崩に陷らしめたることに與かつて最も有力であつたことの、多大の直接證據を持つものである」と。要す

IMT 545

レヒベルクのノースクリフ評

ノースクリフの後にノースクリフあり

るにノースクリフの成功は、敵も味方も同樣にこれを認めてゐる。然もこれは卽ち宣傳戰の成功である。而して宣傳戰は卽ち思想戰である。

× × ×

曾てアーノルド・レヒベルクは云うた。「世界戰爭に於て英國の勝利にノースクリフが現實的に寄與したることは疑ひを容れない。戰爭中彼れが英國の宣傳部の指揮をやつたる仕事は、空前の成功として歷史に殘るであらう。ノースクリフの宣傳はよく英國人民の心理を諒解したるばかりでなく、獨逸人の知識的特性を正さしく諒解した。從つて英國の味方及び中立國の國民に就ても、勝手にこれを諒解し、且つ勝手にこれを誘導した」と。これらは皆な敵からも味方からも與へられたる證文である。然しノースクリフ逝いてノースクリフ無しとは云はれない。今日英米兩國がラジオを通じ、無線電信、電話を通じ、文書を通じ、又たは祕密なる人を通じ、凡有る有形無形のものを使用して思想戰に用立てつつあることは、第一回世界大戰の當時に比すれば更らに倍するものがある

IMT 545

宣傳に不器用なる日本人

他を以て己れを量らず

ことを知らねばならぬ。

× × ×

世の中に宣傳に不器用なるものは、云はば日本國民である。これが一面に於ては、不言實行となつて、日本國民に特色附けることもあるが、其の自から不器用なると同時に、動もすれば敵の宣傳に乘り易きことも、日本人の一短所と云はねばならぬ。我等は何事にも主觀的であつて、己れを以て他を量ることを知つて、他を以て己れを量ることを知らない。その爲めに我國に於ける智勇辯力の士も、動もすればとんでもない間違ひを來たすことがある。卽ち孫子の「彼れを知り己れを知れば百戰殆からず」と云うた訓言を此に改めて見直さねばならぬ。

第十八　自由主義の一掃

我國に於ては共產主義の猛獸毒蛇よりも憎むべきことは皆な知つてゐる。然し自由主義が更らに恐るべきものであることには、殆んど注意す

IMT 545

自由主義は共産主義の母胎

戰慄すべき時代

人と共に思想を一掃せよ

る者は少い。されど自由主義はお玉杓子の如く、共産主義は蛙の如きものである。自由主義は毛蟲の如く、共産主義は蝶の如きものである。概ね共産主義は自由主義が行き詰つたところに出で來たるものであつて、自由主義を歩行する者が其の關門に行き當り、其の一關を排し來たるところに共産主義は出で來たるものである。されば共産主義を杜絶せんとせば、先づ自由主義に警戒を加へねばならぬ。我國が共産主義の最も流行したる時は、他方に於て自由主義の最も流行したる時であつた。明治末期より大正の上期を回想すれば、我等は實に今日でも戰慄を禁ずる能はざるものがある。

× × ×

我等は單に東亜よりアングロ・サクソン人を退却せしむるばかりでなく、アングロ・サクソン人が植え附けたる自由主義を一掃せねばならぬ。自由主義は卽ちアングロ・サクソン思想である。この思想が存在する間は、久しからずして再びアングロ・サクソン人が頭首を擡げ來たる

IMT 545

自由主義は心中の賊

戰時態勢の履違ひ

ことは疑ひを容れない。王陽明は「山中の賊を破るは易く、心中の賊を破るは難し」と云うたが、敵の軍艦や、飛行機や、戰車や、魚雷やは皆なこれ山中の賊である。然も自由主義は卽ち心中の賊である。この賊を退治せざる以上は東亜は決して新秩序を樹立することは出來ない。

第十九　和を以て貴しと爲す

我等は敵に勝つことにのみ氣を取られて、敵に勝つ爲めには味方相互に諧和せねばならぬということを忘却してはならぬ。先づ國內的に云はんに、今日は社會を擧げて戰時態勢となつた。然るにこの戰時態勢といふことを心得違ひして、日本人固有の美質たる禮儀や、作法や、好意や、親切や、一切抛ち去つて、寧ろこれを抛ち去ることが戰時態勢などと誤解するに至つては、甚だ以て痛歎の至りである。

× × ×

試みに汽車に乘つて見よ、電車に乘つて見よ、バスに乘つて見よ、凡

IMT 545

室に怒り市に色す

人心荒れすさむ

有る人と人との接觸する場合を眺めて見よ。我等が曾て經驗したる日本人の美德は、全くとは云はぬが殆んと影を潛めてゐる。支那の文章に「室に怒り市に色す」と云ふが、今日の我が同胞は誰が爲めに怒るか知らぬが、街頭に於て愉色婉容の掬すべきものは、鉦太鼓で探しても殆んど見つからない。偶まそれを見出せば、沙漠の中で綠地を見出したる如く、感激に堪へないほどである。いづくんぞ知らん、これは本來日本人の通有性であつたことを。何故にこれを失うたかに至つては、我等は今まこに其の理由を吟味する遑はない。或は事が多くして、人が少いといふことで、其爲めに荷物までも投げ飛ばすといふが如きことになつたか、其爲めに何れの受付でも皆な佛頂面で相手を叱り飛ばすといふ氣分になつたか。何れにしても斯の如く人心が荒れすさんでは、長き戰鬪を繼續するには甚だ以て迷惑至極と云はねばならぬ。著者は久しき以前米國に遊び、曾て曰く「米國では女が男の眞似をなし、人間が物體の眞似をなす」と。人間が物體の眞似をなすとは、宛も人間が一種の天然力の如く、物

IMT 545.

人間が物體の眞似をなす

人間味の發揮

を取扱ふ上に於て手心、手加減をなして、其の程よき調和をなすだけの親切も無ければ、ゆとりも無いことを意味してゐた。然るに今日我國に於ても亦た人間が物體の眞似をなして、我等が撃滅しつつある米國人其儘の仕振りをなすが如きことを、街頭に於ても、公館に於ても、人類の接觸する場所に於て見出すことは、甚だ心苦しき極みである。

× × ×

我等は今日は一人で一人前の仕事では追附かぬことを知つてゐる。一人で十人前の働きをなすには、何處にか手を抜く必要もあらう。然しながら其の氣持だけは飽くまでも丁寧に、人間味を發揮したいと思ふ。如何なる場合に於ても人間味は必要であるが、國家一旦緩急の際にはこれ程必要なるものはない。我等は今ま此に我が同胞に向つて、人間味を何とかして取戻して貰ひたいといふことを一言するを禁ずる能はざるものがある。殊に官吏とか、智能者とか、富豪とか、所謂る一般の指導者階級に向つて切に希望して止まない。而してこの心を以て我が東亞共榮圏

IMT 545

東亞共榮圏内に及ぼす人間味

内の諸國、諸民族、近くは其の留學生にまでも及ぼす時に於ては、東亞共榮圏内の所謂る修和、親睦は期せずして來たすであらう。要するに我等はこの際聖德太子の「和を以て貴しと爲す」との十七條憲法の一句が、最も重要なることを提唱する。

大東亞會議の用語

英語の普及

結　語

第一　アジアは一なり

我等は過日東京に開かれたる大東亞會議が、絶後と云はざるも空前の出來事として誠に新たなる光明を認めてゐる。然るに其の「アジア*[10]は一なり」と云ひ、一なる理念を具體化させる爲めに大東亞會議が出で來たりたるに際し、其の使用せられたる言語は何くの國の言葉であつたか。我等は當然東亞の主盟たる日本語が一般に使用せらるべきものと信じてゐた。然るに日本語は不幸にして未だ普及せず、これに反し英語は東亞の隨處に普及したるが爲めに、ヒリッピンの代表者、ビルマの代表者、印度の代表者等は何れも英語を使用するの餘儀なきに至つた。英米を撃滅する會議に於て、英語が其の用語となりつつあるといふことは、寧ろ

言語と思想とは脣齒の關係あり

アングロ・サクソン陰謀の排除

滑稽と云はねばならぬ。これを以ても如何に英米の勢力が深く東亞に植ゑ附けられてゐるかを知らねばならぬ。言語と思想とは脣齒の關係がある。アングロ・サクソン人が英語を東亞に植ゑ附けたるは、卽ちアングロ・サクソン思想を植ゑ附くる所以にして、アングロ・サクソンの覇權を永く、久しく東亞に遲しく植ゑ附けるは、アングロ・サクソンの陰謀が徹底してゐることに氣付き、他くまでこれを排除することせんと欲する所以である。されば我等は斯る空恐ろしきアングロ・サクソンの陰謀を排除することを努めねばならぬ。英語を學ぶは彼れを知る爲めには一の方便である。然しながらこれを學んで他を閑却するは、全く精神的に彼れの奴隷となつたるものである。我等は近き將來に斯る會議の催さるる時に於て、少くとも日本語を以て其の正規の用語とせんことを今まより希望して置く。

× × ×

今日何人も「アジアは一なり」と云ふが、其「一」とは何であるか。

アジアは一なる所以

自由主義は弱肉強食を意味す

東亞の根本主義

言葉も必ずしも同一ではない、文字も必らずしも同一ではない、政體も必らずしも同一ではない、人情、風俗も必らずしも同一ではない、歷史は固より同一ではない。銘々の歷史もあれば、銘々の文化もある。各國、各民族皆なそれぞれ確乎として動かすべからざる個性を持つてゐる。然るに「アジアは一なり」とは何故ぞ。それは思想の根本義卽ち人生觀に於て一致點がある爲めである。語を換へて言へば、アングロ・サクソンの自由主義と全く對蹠的の思想に依つてアジアは立つてゐる。アングロ・サクソン的の思想は功利的個人主義である。進化論の法式を人類生活の上に實施するが自由主義である。卽ち自由は競爭を意味し、競爭は鬪爭を意味し、鬪爭は優勝劣敗を意味す。斯の如くにして弱肉強食は自由主義の極樂でもあれば、デモクラシーの天國でもある。然るに我が東亞は人類相愛、社會相親、萬邦協和を以て根本主義としてゐる。卽ち自由の代りに協同を意味し、競爭の代りに互助を意味し、戰鬪の代りに平和を意味する。其の結果は卽ち共存同榮、所謂る「己れ達せんと欲せ

善を以て悪を退治す

道義に基く共存共榮

大東亞の親和確立

ば人を達せしめ、己れ立たんと欲せば人を立たしむ」は我が東洋思想の根柢である。

第二　東亞思想の根本義

されば大東亞共同宣言[*102]に於て掲げられたる五個條は、皆な其の根本義を表象、敷衍したるものに他ならない。即ち

一、大東亞各國は協同して大東亞の安定を確保し、道義に基く共存共榮の秩序を建設す

といふ其の道義なるものは、自由主義と對蹠的にある。即ち人類相愛の主義である。第二條即ち

一、大東亞各國は相互に自主獨立を尊重し互助敦睦の實を擧げ、大東亞の親和を確立す

とあるは、其の根本義を事實の上に實行したることを意味する。以下三條即ち

IMT 545

文化の昂揚

經濟發展

資源開放

善を以て悪を退治す

一、大東亞各國は相互に其の傳統を尊重し、各々民族の創造性を伸暢し、大東亞の文化を昂揚す

一、大東亞各國は互惠の下緊密に提携し、其の經濟發展を圖り、大東亞の繁榮を增進す。

一、大東亞各國は萬邦との交誼を篤うし、人種的差別を撤廢し、普く文化を交流し、進んで資源を開放し以て世界の進運に貢獻す

と云つてゐるのは、何れも皆な根本義より演繹し來たつたものにして、今さ此に逐一說明する必要はない。要するに第三は傳統尊重、文化伸暢の義を明かにし、第四は互惠提携、經濟繁榮の義を明かにし、第五は萬邦交誼、世界進運の義を明かにしたるものである。我等は單にアングロ・サクソンの優勝劣敗、世界を擧げて生ける地獄となすが如き思想を退治するばかりでなく、更らにこれに代ふべき東亞共通の思想を以てすることに於て、始めて「アジアは一なり」と云ふことが出來る。悪を以て悪を退治するではない、我等は善を以て悪を退治するものである。

IMT 545

東西相ひ容れざる思想の根本義

× × ×

戰爭も其他の人類鬪爭の歴史も、西洋のみに存して東洋には存せないといふではない。西洋のみが惡魔國にて東洋のみが聖人國といふではない。但だ其の思想の根本義に於て、東洋の相愛、共親の思想と、西洋の功利的個人主義とは全く相ひ容れざるものである。然るに我が東亞は物質的に彼等から搾取せられたるばかりでなく、其の東亞思想の根本義までも彼等の爲めに蹂躙せられ、消滅せられ、これに代ふるに彼等の所謂る自由主義を以てするに至つた。されば今日の戰爭は、人生の根本義たる「人とは何ぞや」といふ問題より、延いて現實の彼等の自由勝手に横領したる土地、人民を彼等より回復するに至るものにして、大東亞戰爭なるものは決してただ石油や、ゴムや、鐵の生産地の爭奪戰といふ如き、單に卑近なるものでなきことも、我等は最も分明に、且つ適切に看取せねばならぬ。一歩進んで云へば、この戰爭は物質的戰爭を超越して精神的戰爭である。アングロ・サクソンが世界を弱肉强食の世界たらし

精神的戰爭

IMT 545

大東亞道義の蘇生弘通戰

めつつある現狀に向つて一大抗議を提出し、狂瀾を將さに倒れんとする東亞道義の一大蘇生戰であり、且つ一大弘通戰である。（昭和十八年十一月二十九日）

IMT 545

註釋

(一) 文永、弘安の蒙古襲來　元の忽必烈が我國を服屬せしめんとして文永十一年（一九三四）及び弘安四年（一九四一）の二度に亘り北九州に來寇した事變、我國は執權北條時宗よく　聖旨を體し、上下一致してこれを擊退した。

(二) ABCDの包圍陣　アメリカ(America)、英國(Britain)、支那(China)、和蘭(Dutch)の頭文字を取つたもの。

(三) 伏見、鳥羽の役　明治元年正月。

(四) 彰義隊の攻擊　明治元年五月。

(五) 會津戰爭　明治元年八月—九月。

(六) 長岡戰爭　明治元年五月—八月。

(七) 函館戰爭　明治二年四月—五月。

(八) 佐賀の戰爭　明治七年二月。

(九) 熊本神風黨の蜂起　明治九年十月。

(十) 十年の役　西南の役ともいふ。明治十年二月—九月。

(十一) ローマとカルタゴとの戰爭　ローマは元來農業國家として成立し、農民軍隊の力に依つて領土擴大を遂げたが、イタリア全土を統一するに及び、其の都市は商業的となり、資本主義的國家に移行し、海外への發展を企てるに至つた。カルタゴはもとフェニキアの植民市であつたが、本國のフェニキアが衰へるに至りこれを凌駕して隆盛となつた。その立國は商業に在り、地中海の貿易を獨占せんとするに至つた。從つてローマとカルタゴとの衝突は必然の結果であつた。この戰爭はポエニ戰役と總稱せられるが、第一ポエニ戰役(西暦紀元前二六四—二四一)、第二ポエニ戰役(前二一八—二〇一)、第三ポエニ戰役（前一四九—一四六）があり、ハンニバルのローマ占據は第二戰役に屬する。

(十二) ダーウィン　西暦一八〇九—一八八二。英國の博物學者、進化論の創設者として著名。

(十三) 五帝三皇　五帝は支那上代五人の聖君、少昊、顓頊、帝嚳、堯、舜（他說あり）を云ひ、三皇は同じく支那上代の伏羲、神農、黃帝（又は天皇氏、地皇氏、人皇氏）を云ふ。

(十四) 成吉思汗　西暦一一六二—一二二七。蒙古人、支那全土を統一して蒙古（元）帝國を創設し、餘威は印度、東歐に及んだ。元の太祖。

(十五) チムール　西暦一三三六—一四〇五。蒙古人、成吉思汗の後裔と稱す。南は印度、西は東歐まで侵略し、當時の歐洲を震駭せしめた。

(十六) 孔子時代の支那　孔子は我が紀元一一五年に生れ一八七年に死んだ。卽ち今より凡そ二千四、五百年前の人である。

（十七）日本書紀　神代から持統天皇の御宇までを編年體に漢文で記した歴史。三十卷。川島、忍壁兩皇子によつて始められ、舍人親王、太安麻呂等によりて繼承せられ、元正天皇の養老四年完成。

（十八）プラトン　西暦紀元前四二七―三四七。ギリシャの大哲學者。ソクラテスに師事し、二元論の哲學を唱へた。

（十九）湯武放伐　殷の湯王が夏の桀王を放ち、周の武王が紂王を伐つたこと。

（二十）極天皇基を護る　藤田東湖作「正氣歌」の末句に「死爲二忠義鬼一。極天護二皇基一」とあり。

（二十一）癸丑甲寅　嘉永六年、安政元年。

（二十二）英國の支那との戰ひ　英國が支那の阿片禁止を口實として無法に戰を挑み、（西暦一八四〇―一八四二年）、南京條約により講和したが英國の勝利に終りたるもの。阿片戰爭といふ。

（二十三）五個所の港市　廣東、厦門、福州、寧波、上海をいふ。

（二十四）島原耶蘇の亂　德川家光將軍の時代、基督教信者が幕府の同教禁止に反抗し、益田四郎時貞を盟主として肥前島原に亂を起した。寛永十四年（一二九七）から翌十五年にかけて猛烈に幕軍に抵抗したが遂に滅された。

（二十五）杉田玄白　一三九三―一四七七。鷄齋と號す。醫者にして蘭學に長ず。「解體新書」等の作あり。本書の著者による「近世日本國民史」中「幕府分解接近時代」七二、七三參照。

（二十六）藤田幽谷　一四三四―一四八六。水戸の儒者、名は一正。彰考館總裁として大日本史編纂に

IMT 545

當る。「正名論」等の著がある。

（二十七）藤田東湖　一四六六―一五一五。幽谷の子。諱は彪。英繼の大津に入つたのは文政七年（一四八四）五月であつた、時に東湖年十九。安政二年十月二日の江戸大地震で壓死した。

（二十八）橋本景岳　一四九四―一五一九。名は左内、福井藩醫彦也の子、漢洋の醫學を修め、深く時事を慮つて朝野の俊豪と交り、京都に於て斡旋畫策するところあり。安政五年幕吏に捕へられ、同六年刑死した、年二十六。

（二十九）伊藤公　伊藤博文、一五〇一―一五六九。明治期最大の元勳の一人。明治四十二年十月廿六日滿洲ハルビンに於て暗殺さる。

（三十）日英同盟　明治三十五年一月三十日締結、同三十八年八月及び四十四年七月修正、大正十一年華府會議の結果廢棄せられた。

（三十一）安政條約　安政五年（一五一八）六月十九日、神奈川に於て調印せられた十四ヶ條より成る日米通商條約、アメリカ側はタウンセンド・ハリス、日本側は岩瀬肥後守、井上信濃守がこれに當つた。

（三十二）ハリス　西暦一八〇四―一八七八。アメリカの外交官。安政二年（一八五五年）ペルリ等の推擧により駐日總領事として來朝、文久二年（一八六二）辭職歸國した。

（三十三）岩瀬肥後守　一四七八―一五二一。名は忠震、三河の人。川路聖謨等と開港貿易に關することを調査し、屢々米使ハリスと應接し、條約締結に與かつて功があつた。

IMT 545

(三十四) 井上信濃守　安政以來幕府の下田奉行、外國奉行、軍艦奉行等を勤め、岩瀬肥後守と共に條約締結に盡力した。

(三十五) 萬里の波濤を拓開し……　明治元年三月十四日億兆安撫國威宣布の御親翰に「萬里ノ波濤ヲ拓開シ國威ヲ四方ニ宣布シ天下ヲ富岳ノ安キニ置ンコトヲ欲ス」と宣はせられてある。

(三十六) 松岡外相　松岡洋右(二五四〇—)。昭和十五年七月近衛第二次內閣に外相となり、同十六年七月辭職。

(三十七) 鳩の使　平和の使者のこと。

(三十八) 外務省の覺書　昭和十六年十二月八日朝、東鄕外相が駐日米大使グルー、英大使クレーギーに手交したもので七項、四千餘字に亘り理路整然たるものである。

(三十九) 清教徒　十六世紀の後半イギリス國立教會に反抗して起つたプロテスタント派の宗教團體で、主義は、すべての娛樂を罪惡とし、華美、豪奢を蛇蝎視したことである。エリザベス女王に迫害せられてオランダに逃れ、また一團はメイフラワー號に乘じてアメリカ大陸に渡航し、現今の北米合衆國の基礎をなした。

(四十) 虎穴に入つて虎兒を得んとする　後漢書班超傳に「虎穴に入らずんば虎子を得ず」とある。

(四十一) ワシントン　西曆一七三二—一七九九。アメリカ獨立の功勞者、初代大統領。

(四十二) ジェファーソン　西曆一七四三—一八二六。米國第三代大統領。

(四十三) 米國南北戰爭　西曆一八六一—一八六五。北軍(奴隸解放派)の勝利に歸した。

(四十四) チャールス一世　西曆一六〇〇—一六四九。イギリス王、暴君として斬刑に處せらる。

(四十五) 圓頂黨と騎士黨との爭ひ　英國チャールス一世在位時代、これを支持して國家及び教會における專制政治を贊成した騎士黨と、これに反對した圓頂黨との爭ひで、互ひに權力を得て利を得んとし優劣があり、英國に於ける二大政黨の萠芽をなした。

(四十六) 帝國主義　及ぶ限り其國の領土を擴張し、若しくは其國の權力範圍を擴張することを目的とする主義。

(四十七) モンロー主義　西曆一八二二年イスパニアが神聖同盟の餘威を驅り南米の植民地の獨立運動を兵力に依つて鎭壓しようとした時、米國大統領モンローがこれに反抗し、教書を以て發表したもの。即ちアメリカ合衆國は歐洲各國の國際紛爭に關與しない代りにアメリカ大陸には歐洲列國の干涉を許さぬといふ主義。

(四十八) セワード　西曆一八〇一—一八七二。アメリカの政治家。

(四十九) ナポレオン三世　西曆一八〇八—一八七三。フランス皇帝。一八五二年卽位、一八七〇年獨佛戰役に無條件降伏し、翌年帝位を辭す。

(五十) 米國とメキシコとの戰爭　北米テキサス州がメキシコから脫してアメリカ合衆國に合併したことに端を發し、西曆一八四六年米國とメキシコ共和國との間に開かれた戰爭。米國軍は連勝して首府メ

キシコを占領し、一八四八年ヒダルゴ條約によりて和議を結んだ。

（五十一）サー・チャールス・ディルク　西暦一七八九―一八六四。イギリスのジャーナリスト、批評家。

（五十二）グラント將軍　西暦一八二二―一八八五。米國第十八代大統領（在任一八六九―七六）。訪日は明治十二年七月。

（五十三）義和團事件　北清事變とも云ふ。日清戰役後支那人間に排外氣分の起り來りたるに際し、明治三十一年山東、河南兩省に義和團と稱する宗教的祕密結社が起り、支那人を利用して排外熱を煽り遂に外國人に暴行、虐殺を敢てするに至つた。かくて清國政府と各國との間に干戈を交ふるに至り、日・米・英・露・佛・獨・墺・伊の列國は聯合軍を組織し、我が山口素臣中將を總司令官として清兵を擊破し、三十四年八月講和した。

（五十四）加州　北米合衆國カリフォルニア州。

（五十五）ルーズヴェルト　西暦一八五八―一九一九。テオドル・ルーズヴェルト、米國第二十六代大統領（在任一九〇一―八）

（五十六）ポーツマス條約　明治三十八年九月、日露兩國全權が米國ポーツマスに會して締結した日露戰爭の講和條約。我が主席全權は小村壽太郎、露國主席全權はウィッテ。

（五十七）小村外相　二五一五―二五七一。小村壽太郎、外相在任は明治三十四―三十八年、四十一―

IMT 545

四十四年の二回。

（五十八）講和會議　ヴェルサイユ會議。大正七年十一月世界大戰休戰、翌八年一月佛國ヴェルサイユで講和會議が開かれ、同年六月二十八日、日・米・英・佛・伊以下二十二ケ國と獨逸との間に調印を終つた。

（五十九）我が全權　公爵西園寺公望、牧野伸顯以下五名。

（六十）ロイド・ジョージ　西暦一八六三―。英國の政治家、一九一六年首相として自由黨、保守黨の聯立內閣を組織し大戰後はパリ講和會議に奔走した。

（六十一）バルフォア　西暦一八四八―一九三〇。アーサー・ジェームス・バルフォア、英國の政治家、保守黨首領として一九〇二年內閣を組織し同年日英同盟を締結、世界大戰後の平和會議には外相として調印、ワシントン會議には英國全權となつた。

（六十二）ウィルソン　西暦一八五六―一九二四。米國第二十八代大統領、歐洲大戰には一九一七年對獨宣戰を布告し、一九一九年一月の平和會議には盟主となつた。

（六十三）華府會議　世界大戰後大正十年十一月米國大統領ハーディングの提議に基き日・英・米・佛・伊五國の委員が米國の首都ワシントンに會し、會合國の海軍力に制限を加へ所謂る五・五・三の主力艦の比率を定めた會議。

（六十四）五・一五事件　政黨の腐敗、農村の疲弊、ロンドン條約の我國兵力量の不足等に對し陸海軍

IMT 545

青年將校等が憤慨し昭和七年五月十五日、時の首相犬養毅を殺害した事件。

（六十五）二・二六事件　昭和十一年二月二十六日、我國の前途を憂ひたる陸軍青年將校等が時の首相岡田啓介初め重臣等を襲撃し、高橋是清、齋藤實、渡邊錠太郎等を殺害した事件。

（六十六）國際聯盟　國際間における平和安全の恒久的保證を目的とし、共同して國際間の事件を處理せんとする列國の盟約。米國大統領ウィルソンの提言によりヴェルサイユ條約に基き大正八年ジュネーヴに設けられたが、本來米・英・佛等の現狀維持機關なので昭和八年以來日・獨・伊等諸國相次いで脱退し、事實上有形無實の存在に歸してゐる。

（六十七）リットン卿　西暦一八七六―。英國の政治家、伯爵。昭和七年國際聯盟日支紛爭調査委員長として日本及び支那に來り、所謂る「リットン報告書」を作成した。

（六十八）移民法を制定　大正十三年四月米議會に上程され可決、同十四年七月一日から實施。

（六十九）賚金凍結　昭和十六年七月二十五日。

（七十）ギャラップ輿論調査　米國人ジョージ・ホレース・ギャラップが西暦一九三五年設立したアメリカ輿論調査所の調査。

（七十一）教書　米國で大統領が國會に事務を報告し又は立法上の注意を促すために發する書面。

（七十二）城下の盟　城の下まで攻め入られて結ぶ和議、屈辱講和。

（七十三）日獨伊三國の條約　昭和十五年九月二十七日締結。

（七十四）カボネ　アル・カボネ。イタリア系の米國人、賭博と酒密造により巨額の悪財を積んだ。

（七十五）ナイヤガラ瀑布　アメリカ合衆國とカナダ聯邦の國境を流れるナイヤガラ河流路中にかかる大瀑布、幅約八〇〇米、高さ四十八米。

（七十六）常山の蛇　孫子の九地篇に常山に棲む率然といふ蛇の首を撃てば尾至り、尾を撃てば首至り、其中を撃てば首尾俱に至るとあるに據る。轉じて首尾相應じて攻撃防禦し敵をして乘ずるを得ざらしめる陣法。

（七十七）劉玄德　支那三國時代の蜀の皇帝。關羽、張飛を兩翼とし諸葛孔明を參謀とし、國を漢と號し、呉の孫權、魏の曹丕等と中原を爭ひ、半途にして崩じた。

（七十八）シャイロック　英國の劇作家シェークスピヤ（西暦一五六四―一六一六）の戯曲「ヴェニスの商人」の登場人物、貪婪殘忍なるユダヤ人高利貸の名。

（七十九）獨ソ不侵條約　昭和十四年八月二十三日締結。

（八十）出師の表　諸葛孔明が蜀漢の後主に上つた書。漢の劉備崩じて後、孔明は十七歳の遺子劉禪を守り立て呉、魏に當らんとした。二二六年五月自から兵を率ゐて中原を定めんとし、出發に臨んで劉禪に上つたもの。漢室に對する誠忠の情の溢れるもので、前後二回の表がある。

（八十一）クレマンソー　西暦一八四一―一九二九。佛國の政治家。一九〇六年首相、一九一七年再度首相となるや國論を一決し、軍政をフォッシュに一任、祖國の危機を救つて世界大戰最終の勝利を得た。

（八十二）フォッシュ　西暦一八五一―一九二九。佛國の元帥、世界大戰に佛國をして最終の勝利を得しめた軍政の功勞者。

（八十三）三國　漢の滅亡後鼎立した魏、吳、蜀の三國。

（八十四）秀吉でも家康でも相當の年まで生きた　秀吉は慶長三年六十三歲、家康は元和二年七十五歲で薨じた。

（八十五）酒類の製造節約もしくは禁止　例へば寛文十一年十二月味酒、白酒、煉酒の釀造を禁じたるが如き。

（八十六）第四回の大統領選擧　ルーズヴェルトは西暦一九三二年以來連續三回米國大統領に當選してゐる、次期選擧は明一九四四年である。

（八十七）山口中將　海軍中將山口多聞、大東亞戰に偉功を樹て、昭和十七年六月南太平洋に於て艦と運命を共にした。

（八十八）賀來少將　海軍少將賀來佳男、昭和十七年六月その艦長たりし艦と運命を共にした。

（八十九）加藤軍神　陸軍少將加藤建夫。昭和十七年五月ビルマ戰線にて戰死。

（九十）長崎丸船長　菅源三郎。長崎丸觸雷沈沒の責を取り昭和十七年五月二日割腹自殺した。

（九十一）マッキンレー　西暦一八四三―一九〇一。米國第二十五代大統領、無政府主義者に射殺さる。

（九十二）タフト　西暦一八五七―一九三〇。米國第二十七代大統領。

（九十三）ニュー・ディール　ルーズヴェルトが一九三三年召集した議會に提出可決された緊急銀行法、產業復興法、聯邦緊急救濟法等十數件に金の退藏及び輸出を禁ずる大統領令を含み、これらの政策を一括してニュー・ディールと云ふ。彼はこれによつて恐慌克服、產業復興を意圖したのみならず從來の寡頭金融資本家の勢力を削減し、富の廣範圍への再分配を强調、實現せんとした。

（九十四）フーヴァー　西暦一八七四―。米國第三十一代大統領。

（九十五）ランギルフ・チャーチル　西暦一八四九―九五。英國の政治家、ソールスベリー內閣の時印度事務大臣、藏相を勤めた。

（九十六）ボア戰爭　南アフリカに於ける和蘭の移住農民（ボア人）が英國の羈絆を脫せんとしてトランスヴァール共和國を宣明するや、英國はこれを掃蕩せんとして戰端起り（西暦一八八〇―一）英の大敗に歸し、共和國の獨立を承認した。其後英國の南阿統一計畫が進行し、これに對抗してトランスヴァール共和國、オレンヂ自由國は共同して英國と戰つた（西暦一八九九―一九〇二）が英國の勝利に終り、占領地は自治領となつた。後の南アフリカ聯邦がそれである。

（九十七）チェンバレーン　西暦一八六九―一九四〇。ネヴィル・チェンバレーン、英國の政治家。一九三七年首相となり翌年對獨宣戰をした。

（九十八）ボールドウィン　西暦一八六七―。英國の政治家、一九二三年、二四年、三五年の三度首相となつた。

（九十九）ノースクリフ　西暦一八六五―一九二二。英國の新聞記者、デーリー・メールの創刊者。訪日は大正十年。

（百）王陽明　西暦一四七二―一五二八。名は守仁、字は伯安。明代の大儒。知行合一、心卽理、致良知の說を唱へ「王文成公全書」、「傳習錄」等の著あり。彼の說は陽明學として我國にも榮え、中江藤樹、熊澤了介などを出してゐる。

（百一）「アジアは一なり」　岡倉天心（一二五二―一二五七三）が明治三十五年その著「東洋の理想」の開卷劈頭に述べたる句。

（百二）大東亞共同宣言　昭和十八年十一月六日、東京に開備された大東亞會議で採擇、發表された。

IMT 545

出版會承認い430295號

必勝國民讀本

不許複製

昭和十九年二月一日印刷
昭和十九年二月十一日發行（五〇〇、〇〇〇部）

㊒定價五拾五錢
（要定價表示一ノ四倍）

著作者　德富猪一郎
發行兼印刷人　相馬基　東京都麴町區有樂町一ノ十一
印刷所　每日新聞社　東京都麴町區有樂町一ノ十一
發行所　每日新聞社　東京都麴町區有樂町一ノ十一　大阪市北區堂島上二ノ三六　門司市清滿町一丁目九〇二
配給元　日本出版配給株式會社　東京都神田區淡路町二ノ九

日本出版會々員番號一三一五一九

（四〇二東東）

IMT 545　195

Doc # 3054

華日新聞社刊